

実エンドウにおける被覆肥料を用いた施肥量削減

農業試験場

[研究のねらい]

本県の特産野菜であるエンドウ類は、連作障害のみられる代表的な品目です。産地では、連作障害を軽減するため太陽熱土壌消毒に加えて施肥量を増やしています。しかし、土壌養分の過剰集積による生育障害や硝酸態窒素の地下水汚染等の問題が指摘されています。そこで、被覆肥料を利用して実エンドウの施肥量削減を図ります。

[研究の成果]

①秋まきハウス冬春どり実エンドウ連作栽培において、エコロング100日タイプ（N20kg/10a）と速効性化成肥料（N5kg/10a）を用いた全量基肥施用は、慣行と同等の収量、粗収益が得られます（図1）。

②窒素施肥量は2～3割、肥料費は1～3割削減できるとともに追肥を省略できます（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- ①太陽熱土壌消毒を実施するほ場では、消毒後に施肥を行う必要があります。
- ②無機態窒素が多く残存しているほ場では、速効性化成肥料を省略できます。



写真1 エコロングによる全量基肥施用栽培

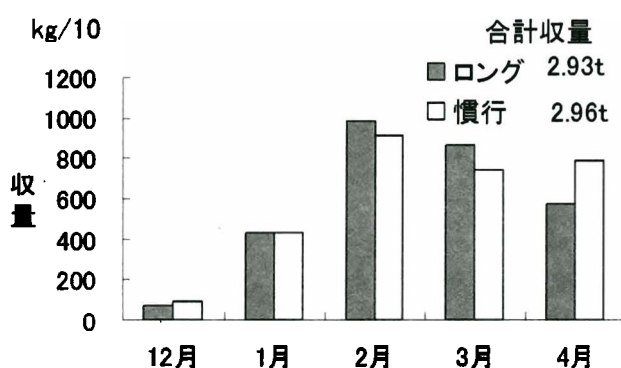


図1 エンドウにおける肥料の種類と月別収量
注) 秋まきハウス冬春どり、連作栽培、みなべ町

表1 肥料費、労働時間の比較

項目	被覆肥料	慣行
肥料費 (円/10a)	エコロング	-
	CDU222	-
	配合特号	18,090
	配合1号	18,800
	ペレット868	3,640
トミ液肥	2,350	
合計	38,940	42,880
労働時間 (時間/10a)	基肥	4
	追肥	5
	4	9

(問い合わせ先TEL：0736-64-2300)